

目指す学校像	わかる授業 明るい学級 挨拶と歌声響く学校
--------	-----------------------

重点目標	1 指導法の工夫・改善を通し、学力の向上を図る 2 健康教育(学校保健・学校安全・防災教育等)の充実を図る 3 地域と連携した教育活動を推進する 4 基礎体力と機動力のある職員組織を構築する
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学 校 運 営 協 議 会 に よ る 評 価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実 施 日 令 和 年 月 日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査の結果は、前年度と比較して全般的に底上げされたものの、依然として数学において、基礎的な知識・技能の分野に課題が見られた。 ○全国学力・学習状況調査における国語・数学・理科の「勉強は好きですか」の問いに対して肯定的な回答が低い。 ○学校評価生徒アンケートにおいて、数学の問題に取り組む「朝学習を通して学習への関心が高まったか」の問いに対して、肯定的な意見が約78%であった。 ○全国学力・学習状況調査において、数学の無答率が全国平均より高く、基礎学力の定着及び活用する力に課題がある。 ○数学を含めた学習への苦手意識が依然として高く、生徒の興味・関心を育てる必要がある。	・朝学習における数学の学習活動の継続的取組 ・数学の授業における習熟度別授業等、授業の工夫改善(課題)	①朝学習において週に1度、数学のスタディ・サブリを活用し、生徒個々の理解度に合わせた学習を進める。 ②朝学習で取り組んだ学習の単元や正答率を記録させ、生徒の取組状況を視覚的に捉えさせることで学習習慣の定着を図るとともに、教員が進捗状況と理解度を確認し、個々に指導援助する。	①朝学習における生徒個々のスタディ・サブリの取組状況が予定通り進行しているか。 ②学校評価生徒アンケート「(数学の問題に取り組む)朝学習を通して学習への関心が高まったか」の問いに対して、肯定的な意見が昨年度より増加しているか。	①昨年度に引き続き、基本的に毎週水曜日の朝学習に数学の問題を配信し、生徒に問題を取り組ませることができた。 ②生徒にとって「毎週水曜日は数学の日」という意識が恒常化してきたためか、肯定的な意見は-2.4%とやや減少した。しかし、3年市学力検査では、課題である数学の第2回と第3回の市平均との差が-0.7点とあった。	B	スタディサブリの継続的な使用は学力向上に意義があるため、今後も取り組む必要があり、朝学習だけではなく、授業でも定期的に取り組めるよう工夫する。また、他教科においてもスタディサブリだけではなく、基礎学力を身に付けるためのソフトを活用し、生徒個々にあった取組にする必要がある。	全国学力・学習条項調査の取組が生徒への過度なプレッシャーになっていないか心配である。取組は今後も継続してほしい。
2	(現状) ○学校評価生徒アンケート「学校での生活は毎日が楽しく充実していますか」「友達と仲良くしようとしていますか」の問いに対して肯定的な意見が95%を超えている。 ○学校評価生徒・保護者アンケートのいじめ撲滅の項目については、肯定的意見が他の項目に比べやや低い。 ○防災教育生徒アンケートより、災害に対する意識が高くなったものの、実践する自信が持てていない。(課題) ○学校へ登校できない生徒は少ないものの、小学校から固定されている人間関係が悪影響にならないよう継続的な指導が必要である。 ○生徒の防災に関する実践力を高め、地域に貢献できる人材を育成する必要がある。	・きめ細やかな指導と生徒指導・教育相談体制の充実 ・防災教育における研究成果の活用と地域との連携	①生徒の些細な情報でも耳を傾け、迅速な対応をする。 ②報告・連絡・相談・見届けを徹底する体制を強化し、組織的に対応する。 ③ICTを活用して情報を共有し、適切なタイミングで支援、相談を行う。	①学校評価生徒アンケート「困ったときなど、必要に応じて先生に相談できるか」の問いに対して、肯定的な意見が昨年度より増加したか。 ②組織的な生徒指導・教育相談が機能しているか。	①各教員が生徒とのコミュニケーションの必要性を感じて積極的に声をかけ、相談等にもこまめに対応した結果、肯定的な意見が+7.0%と大幅に増加した。 ②小規模校の特性を生かし、生徒指導教育相談委員会で情報を細かく共有した。学年だけではなく、学校全体で対応するなど、生徒が過ごしやすい環境作りに取り組めた。	A	生徒と教員の信頼関係が向上してきたため、次のステップとして、生徒の不安を作らない環境を作り出すための手段を考える。また、引き続き生徒指導教育相談委員会で情報を細かく共有して、学年を超えて機動力のある組織体制を更に固めていく。	
3	(現状) ○昨年度、植水小学校との合同学校運営協議会を開催し、学校と地域の協働体制について熟考を重ねた。 ○新型コロナウイルスの状況により、地域と連携した取組を実施することができていない。(課題) ○新型コロナウイルスの5類移行に伴い、更なる地域との連携が必要である。 ○学校の取組や地域との連携などを、保護者等へ周知・理解をさらに広めていく必要がある。	・目指す生徒像の姿を体現するための地域連携行事の推進 ・地域連携活動や学校運営協議会の活動についての広報	①「輝き事業」や「読書会」等、大宮南高校や大宮光陵高校と連携した取組を昨年度から継続するとともに、地域の特性を意識し、地域と連携した取組を実施して、生徒の地域への関わりに対する意識を高める。	①学校自己評価アンケートの生徒と地域との関わりについての項目において、肯定的な意見が昨年度より増加したか。	①輝き事業については保護者の協力のもと、11月に学校周辺の清掃活動を実施した。読書会や青少年育成会主催の行事に参加するなど、今年度も地域との関わりを深めることができ、学校評価では地域や保護者からの願いを受けて取り組んでいるとの評価を昨年度より多くいただいた。	A	小・中・高校の連携はもちろん、地域との連携や保護者との連携の機会を学校行事の内容精選を踏まえ、更に設定できるか検討していく。今後もPTAを中心とした保護者との連携を深め、地域との関わりにつなげていければよい。	土曜チャレンジスクールでは、1小1中の特性を生かし、植水小と連携を図るとよい。植水小で取り組んでいる防災フェスなどは合同で行うこともよいのではないかと。さらに地域も連携していければよい。 情報発信も細かく行っている。情報を知らない保護者もいるので、知ってもらえるような機会を作るとよい。
4	(現状) ○服務についての意識は比較的高く、業務に協力して取り組む姿勢があり、互いにフォローし合う職場環境が比較的整っている。 ○ICTに精通した職員が少なく、エバンジェリストに負担がかかっている。(課題) ○教員の年齢構成が二極化しており、若手教員及びミドルリーダーの育成が急務である。 ○授業において、生徒が学習内容を理解しやすくなるためのICTの活用方法を研究する必要がある。 ○小規模校における校務分掌について、業務改善が図れるよう見直しをする必要がある。	・教員としての自覚を持った行動と働きやすい職場環境の改善及び授業力の向上	①教員間における協働体制等を含めた服務研修を学期に1回実施し、協働体制のさらなる強化と若手教員育成の環境を整える。 ②年齢問わず、生徒の学力向上を目指して、ICTを有効活用した授業を相互に公開する。 ③キャリアナビ等を活用し、指導力向上に向けた研修に取り組む環境を整える。 ④教員一人ひとりが、勤務時間外在校時間だけにとらわれず、必要な業務を精選する。	①全職員の勤務時間平均値が昨年度から減少しているか。 ②学校評価教職員アンケート「植水中学校は働きがいがあり、働きやすい職場か」の問いに対して、肯定的な意見が昨年度より増加したか。	①特に若手教員がToDoリストを活用し、実践したことで、各個人で業務の効率化を図ることができた。その結果、年間在校時間が、昨年度より1人平均約29時間減少した。(12月末現在) ②ICTを活用した授業公開を通じて若手教員が授業改善に取り組むとともに、ベテラン教員においても、ICTの活用意識が高まり、学校全体で相乗効果が見られた。授業研究など、取り組むべき業務は多少増加したものの、教員同士の連携もあり、職場環境としてはおおむねよい。学校評価職員アンケートでも、肯定的評価が95%となり、昨年度より増加した。	A	ICT支援員を講師として、授業で使えるソフトウェアの研修を実施した。今後は授業でどのように活用するかを深めていく必要がある。また、日頃から授業を参観しあうなど、協働体制を充実させる。学校全体での研修をさらに増やしていくことで、学校全体を見渡せるリーダーを今後も育成していく。時間外在校時間の減少に意欲的に取り組む教員は多かったものの、業務量が多く、減少につながらなかった教員もいたため、校務分掌の配置バランスを考えていく必要がある。	

